



HPはこちら



テーマ

デジタル化による業務日報の高度化と見積作成のAI活用

DXチャレンジのきっかけ

DXの必要性は感じていましたが、何から着手すべきか分からず悩んでいました。みえDXトライアルサポートで伴走支援が受けられることを知り、改善のチャンスだと考えました。自社の課題整理と方向性の明確化を目的に参加しました。

具体的な課題

01 日報有効活用

グループウェアによる日報の閲覧が情報として共有、蓄積されにくく、迅速な社内の意思疎通やナレッジ共有に活かされていない。

02 見積作業の効率化

不完全な図面から現場状況を推測し、過去の膨大な実績から類似単価を探し出し、概算見積もりを算出する必要があり、作成に多くの時間を要している。

伴走支援取組内容

📄 日報業務運用改善

既存のシステム基盤を活用しPower Platformへ移行することにより、日報内容を蓄積しAIが解析して緊急度を判定し、重要情報を上長へ自動通知する仕組みを検討。

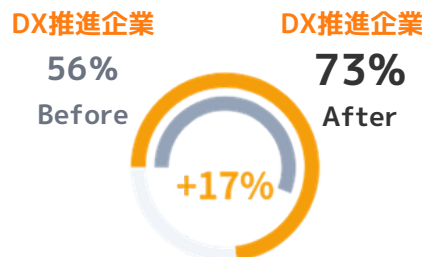
📊 図面積算ツールとAI検索の導入

図面から面積を自動計測するツールの導入や、過去の膨大な見積データから検索するAIを導入することにより、経験が浅くても積算可能な仕組みを検討。

得られる成果（未来予測）

- ✔ 従業員のナレッジ共有の**迅速化**と課題の追跡で**実行力のある組織**
- ✔ 概算見積作成**リードタイムの短縮**

DX推進度の変化



~30% : DX準備企業 ~79% : DX推進企業 ~100% : DX先進企業

企業担当者の声

DXは難しいものだと思っていましたが、実際に取り組んでみると身近な業務から改善できることが多いと気づきました。専門家の支援を受けることで、会社としての方向性も明確になり、前に進むきっかけになりました。まずは小さな一歩を踏み出すことが大切だと思います。

今後DXにチャレンジする企業へのメッセージ

DXは特別なことではなく、日々の業務を見直すことから始められます。小さな一歩でも確実に変化につながるので、ぜひ一度取り組んでほしいです。専門家に相談するだけでも、会社の課題がはっきりし、視野が広がり前進できます。